



蜘蛛の糸／鼻

The yarn of the spider / the nose

雷羽

Ground Top  
近代小説シリーズ

# 蜘蛛の糸／鼻

雷羽 著  
Ground Top小説



## 「蜘蛛の糸／鼻」

このファイルはサンプルです。

冒頭1ページが試し読みいただけます。

その他、内容が省略されていますのでご了承ください。

転載・配布は禁止されています。

## 蜘蛛の糸

ある日のことでございます。お釈迦様は極楽の蓮池の淵を、ひとりでぶらぶらとお歩きになっておりました。池の中に咲く蓮はどれも玉のように真っ白で、蕊からは何とも言えない良い匂いが漂っております。極楽はちょうど、朝なのでございましょう。

やがてお釈迦様は、その池の淵にお立ちになって、ふと蓮の葉の間から池の中をお覗きになられました。極楽の池の真下は地獄の底にあたっておりますから、三途の川も針の山も眼鏡をしましたように、はっきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、韃陀多という男がほかの罪人と一緒に蠢いている姿をお留めになりました。この韃陀多という男は、人を殺したり、男を強姦したり、色々悪事を働いた淫乱でございますが、それでもたった一つ善いことをしたことがございます。この男が森の深くで若い男を強姦していましたとき、男の肛へ中出しした直後に蜘蛛が見ていたことに気付き、勢いでその蜘蛛を殺そうとしたのでございます。ぐったりとした男を捨て、蜘蛛を踏み殺そうと致しましたが、「いやいや、小さいながら命あるものに違いない、その命を無闇に取ろうとは可哀相だ。虫に見られたところで何のこともあるまい。」こう申しまして蜘蛛を生かしてやったことがあるのでございます。

お釈迦様は地獄をご覧になりながら、その蜘蛛を助けたことがあるのを思い出しになりました。それだけ善いことの報いがあるならば、地獄から救い出しても良いのではあるまいかとお考えになり、辺りを見渡しますと、翡翠のような蓮の葉の上に極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀の糸をかけております。お釈迦様はその糸をお手に取り、極楽の池にそっとお垂らしになられました。糸は蓮の葉の間からそっと地獄の底へとまっすぐに伸びていきます。

さて、韃陀多はといいますと、地獄の血の池の中で、他の罪人と共に浮き沈みをして苦しんでおります。血の池には罪人達の汚れた精液や、鬼達の臭い精液も混じっておりますから、罪人達も溺れるたびにそれを口にしてるのでございます。その暗闇からぼんやりと浮かび上がるのは針山の針でございます。銀色に光る針山の針には、男どもが肛門を突き刺され、腹から背から針が通り抜け、痙攣しながら射精を繰り返しているのでございました。罪人達は男臭い地獄の責めの中で、精液を搾り取られ、鬼達の肉便器となり精根果ててしまっているのでございましょう。ですからさすがの淫乱韃陀多も、精液混じる血の池に溺れ、まるで去勢された犬のようにただただ力なく喘いでいるのでございました。

ある時のことでございます。韃陀多がふと血の池の上空を見上げますと、暗い地獄の遠い遠い先から真っ直ぐに、自分のところへ蜘蛛の糸が降りてくるのを見つけたのでございます。韃陀多は思わず手を打って喜びました。この糸を縋って登っていけばきっと地獄から抜けだせるに違いございません。上手く行けば極楽へ辿り着き、肉付き豊かな仏様のお体と目合うことも出来ましょう。さすれば針山で体を貫かれ射精に悶えることも、血の池で鬼達の臭い精液を飲まされることも、ある筈ございません。

## 個人販売元

Ground Top <http://groundtop.sakura.ne.jp/>  
雷 羽 [banji.jp@gmail.com](mailto:banji.jp@gmail.com)

Printed in Tokyo, Japan. All rights reserved.

## 商品情報

販売価格：非売品

管理コード：df-497244wbvp

取扱種別：電子取引

発行：2013年9月

販売者：雷羽

作成者：雷羽

販売元：Ground Top (<http://groundtop.sakura.ne.jp/>)

作成元：Ground Top (<http://groundtop.sakura.ne.jp/>)

連絡先：[banji.jp@gmail.com](mailto:banji.jp@gmail.com)

著作権：Copyright (C) Ground Top by LeiYu.

ZIP内容：

・kumonoito\_pdf.pdf